

ロックダウンに左右された中国経済

ポイント① ロックダウンの影響でGDP急減速

7月15日に発表された中国の2022年4-6月期の実質GDPは、前年同期比+0.4%となり、1-3月期の同+4.8%から急減速しました。また前期比では、▲2.6%と2020年1-3月期以来のマイナスとなりました。「ゼロコロナ政策」のもとで、5月末まで上海市で行なわれていたロックダウン（都市封鎖）により、企業生産や個人消費が落ち込んだことなどが影響しました。政府の掲げる2022年の成長目標、「+5.5%前後」の達成は厳しい状況です。

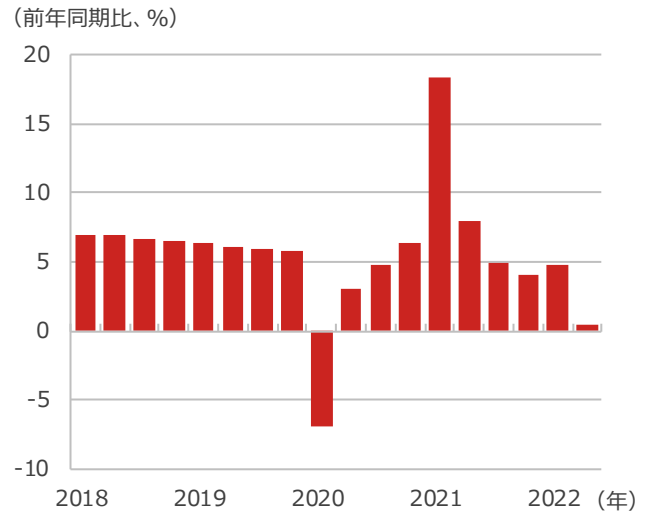
ポイント② 6月の主要経済指標改善は好材料

6月から上海市のロックダウンが解除され経済活動が再開したことなどから、同日に発表された6月の鉱工業生産指数は前年同月比+3.9%となり、5月の同+0.7%から改善しました。更に個人消費の動向を示す小売売上高は、政策支援のあった自動車販売高が大きく回復したことなどから、6月は前年同月比+3.1%となり、5月の同▲6.7%から大きく改善し、プラスに転じました。また、13日に発表された6月の貿易統計では輸出の伸びが見られ、供給網の混乱が解消に向かっていることが示されました。

ポイント③ 感染対策と経済発展の両立

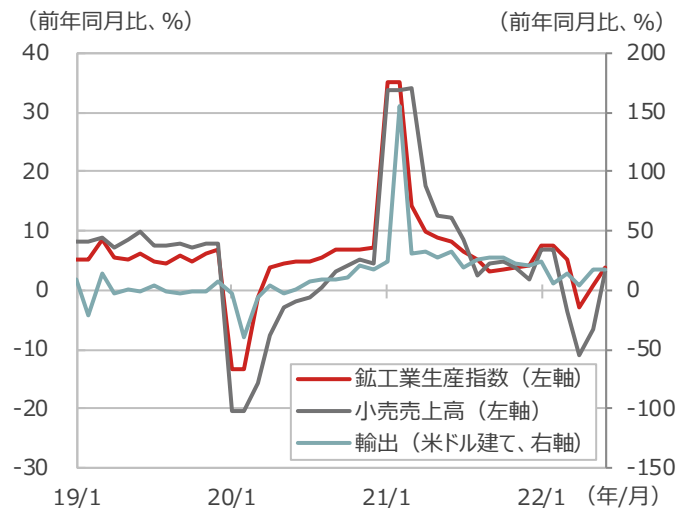
厳格なゼロコロナ政策が継続されている中国では、新型コロナウイルスの感染拡大により、再びロックダウンが行なわれる可能性には注意が必要です。ただし、習主席は6月末に武漢を視察した際、感染対策と経済発展を両立させることについて自信を示しており、政府は年後半の経済下支えのために、経済政策を検討すると見られています。上海市で実施したような強力なロックダウンは影響が大きすぎるため、ゼロコロナ政策の工夫が見られるかにも注目が集まります。

中国の実質GDP（国内総生産）成長率



期間：2018年1-3月期～2022年4-6月期、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

中国の鉱工業生産指数、小売売上高、輸出



期間：2019年1月～2022年6月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

7月31日	中国製造業/非製造業PMI（購買担当者景気指数、7月）
8月10日	中国CPI（消費者物価指数、7月）